

Eタイプストレートハンドピース

EX-5B

EX-6B

EX-6D

取扱説明書

MADE IN JAPAN

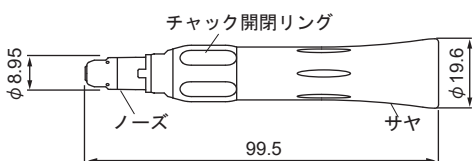
⚠ 注意

- ・使用する前にこの取扱説明書を読み、各部の機能をよく理解してから使用を開始してください。この取扱説明書はご使用になる方がいつでも見ることのできる場所に保管してください。
- ・有資格者による歯科領域の治療または技工にのみ使用してください。
- ・分解、改造は絶対に行わないでください。
- ・口腔外科領域の治療には使用しないでください。
- ・強い衝撃を与えないでください。特に落下させないように注意してください。
- ・ご使用前にバーが安全に取り付けてあるかご確認ください。不完全な取り付けは、回転中にバーが抜けるおそれがあり危険です。
- ・このハンドピースは、治療および精密技工用として設計されています。刃部の直径が4mm以上の太いバーで重切削を続けるとベアリングの寿命が極端に短くなったり、バーが取り外せなくなる、またはバーが飛び出しけがをするおそれがあります。
- ・ガタ、振動、音、温度（発熱）に十分注意して、予め患者の口腔外で回転させ点検を行ってください。その時少しでも異常を感じたら、すぐに使用を中止し販売店までご連絡ください。
- ・使用中、少しでも異常を感じたら使用を中止して、販売店までご連絡ください。
- ・酸化電位水（強酸性水、超酸性水）、または滅菌液で、洗浄、浸漬、拭き取りは行わないでください。
- ・切削時は安全、健康のため保護眼鏡、防塵マスク等を着用してください。
- ・機器及び部品は、必ず定期的に点検を行ってください。
- ・長時間使用していない状態で再び本製品をご使用の際は、ガタ、振動、異音、発熱に注意して空回転させ、異常のないことを確認してからご使用ください。

型 式	EX-5B	EX-6B/6D
一般的名称	ストレート・ギアードアングルハンドピース	
販 売 名	ストレートハンドピース EX-5	ストレートハンドピース EX-6
認 証 番 号	219ALBZX00015000	219ALBZX00002000

1. 各部の名称、寸法、仕様

EX-5B

許容最高回転速度… 40,000min⁻¹(rpm)

使用バー…シャंक径φ2.35、最大長さ44.5mm

刃部の最大作業部径4mm以下のバー

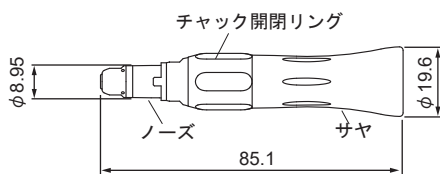
またはJIS T 5504-1（軸部形式2）に規定されたバー

またはJIS T 5901に規定するUタイプコントラ

バーの装着長さ… 30mm

ギア比率…4:1

EX-6B

許容最高回転速度… 40,000min⁻¹(rpm)

使用バー…シャंक径φ2.35、最大長さ44.5mm

刃部の最大作業部径4mm以下のバー

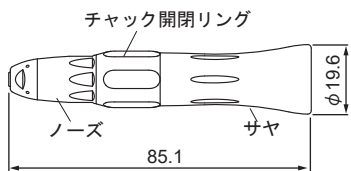
またはJIS T 5504-1（軸部形式2）に規定されたバー

またはJIS T 5901に規定するUタイプコントラ

バーの装着長さ… 30mm

ギア比率…1:1

EX-6D

許容最高回転速度… 40,000min⁻¹(rpm)

使用バー…シャंक径φ2.35、最大長さ44.5mm

刃部の最大作業部径4mm以下のバー

またはJIS T 5504-1（軸部形式2）に規定されたバー

バーの装着長さ… 30mm

ギア比率…1:1

図 1

2. ハンドピースとモーターのセット方法



取り付ける際は、ハンドピースの位置決めを、モーターの位置決めに合わせてまっすぐ差し込みます。取り外しは、モーター前部とハンドピース後部をしっかりと持ってまっすぐ引き抜きます。

⚠ 注意


- ・ハンドピースの着脱は、必ずモーターの回転が完全に停止しているのを確認してから行ってください。
- ・Eタイプ（JIS T 5904に規定されたジョイントを有する）、最高回転速度40,000min⁻¹以下のモーターと接続してください。

3. バーの着脱

3-1 取り付け

- 1) チャック開閉リングを“”の方向に「カチッ」と音がするまで回します。（図2）
- 2) バーをチャックの奥まで挿し込み、チャック開閉リングを“”の方向に「カチッ」と音がするまで回します。
- 3) バーを押し引きして確実に装着されていることを確認します。

3-2 取り外し

チャック開閉リングを“”の方向に「カチッ」と音がするまで回し、バーを取り外します。

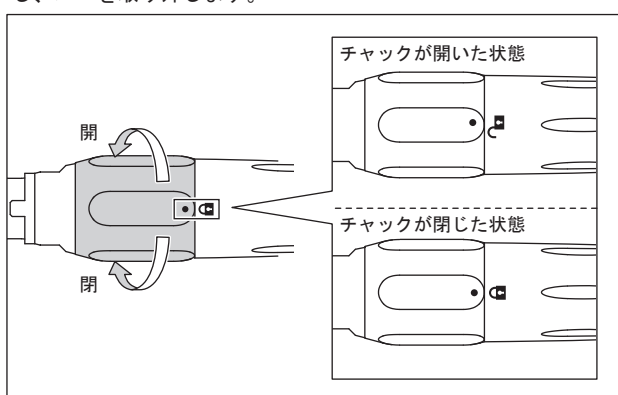




図2

⚠ 注意

- ・切削バーを固定した後、●印と“”印があることを確認してください(図2)。●印と“”印がずれた位置で回転させるとハンドピースが発熱し、火傷をすることがあります。
- ・バーを浅咬みの状態で使用しないでください。ベアリングの早期故障の原因になります。
- ・バーの着脱は、回転を完全に停止させてから行ってください。
- ・チャック開閉リングが開いているときやバーを取り付けていないときは、回転させないでください。
- ・装着するバーのシャンクは、いつもきれいにしてください。ゴミがチャック内部に入ると、芯ブレやチャック保持力がなくなるなどの原因になります。
- ・バーメーカーの指定した回転速度を超えて使用しないでください。
- ・バーの最大長さを超えて使用しないでください。
- ・過度の加圧にて使用しないでください。バーが折れたり、曲がったりします。また、バーが取り外しにくくなります。
- ・以下のようなバーは使用しないでください。これらのバーを使用しますと、回転中に折れたり、抜けたりする恐れがあります。
 - 曲り、変形、サビ、欠け、折れ、摩耗の激しいバー
 - 刃や軸に傷がついたバー
 - JIS規格外、後加工を施したバー

4. 注油について

注油は使用後、オートクレーブ前には、必ずパナスプレープラスまたは自動注油システムによって行ってください。

■パナスプレープラスによる注油

- ①パナスプレープラスにEタイプスプレーノズルを強く差し込みます。
- ②ハンドピースから、バーを取り外します。

〈精密技工や歯牙切削等で使用した場合〉

- ③Eタイプスプレーノズルをハンドピース後部に差し込み、3秒間くらしスプレーします。

〈口腔外科等、生理食塩水下や血液下で使用した場合〉

- ③Eタイプスプレーノズルをハンドピース後部へ差し込み、3秒間くらしのスプレーを3回繰り返して、ハンドピース先端から出るオイルに血液などの異物がまざらなくなるまで、内部の洗浄注油を行ってください。

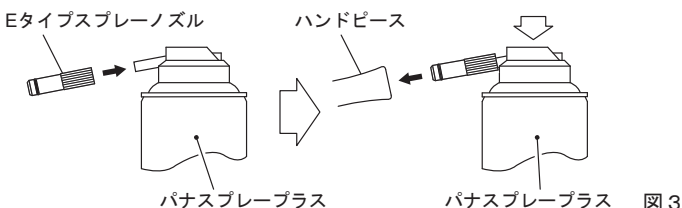


図3

⚠ 注意

- ・注油する際は、ハンドピースをしっかり押さえてスプレーの圧力によって飛び出さないように注意してください。
- ・スプレーはハンドピース先端よりオイルが出るくらい(3秒間くらい)まで行ってください。
- ・パナスプレープラスを逆さにして使用しないでください。
- ・生理食塩水下や血液下などでの使用後は必ずすぐに、洗浄、注油、滅菌を行ってから保管してください。血液などが付着したまま放置されますと、内部で血液などが凝固し、さびが発生して事故や故障の原因となります。

■弊社製自動注油システムによる注油

弊社製自動注油システムを使用する場合、自動注油システムの取扱説明書をよく読んで上で、使用してください。

⚠ 注意

- ・生理食塩水や血液などの侵入が予想される場合、自動注油システムでは十分に洗浄注油しきれないおそれがありますので、スプレー式オイルでのメンテナンスをしてください。

5. 滅菌について

弊社では、滅菌についてはオートクレーブ滅菌を推奨しています。初めてご使用になるとき、及び各患者ごとの治療が終わりましたら、バーを取り外し下記のとおりオートクレーブ滅菌を行ってください。

■オートクレーブ滅菌方法

- ①表面の汚れをブラシ(金属製は不可)等で払い落とし、消毒用アルコールを含ませた綿で拭き取ります。
- ②パナスプレープラスにより注油します。(4.注油についてを参照)
- ③滅菌バッグに入れ封印します。
- ④135℃までの温度でオートクレーブ滅菌を行います。
例) 121℃で20分間、または132℃で15分間
- ⑤使用するまで滅菌バッグにいれたまま、清潔な状態を保てる場所に保管してください。

⚠ 注意

- ・PVA(ポリビニルアルコール)等の水溶性の接着成分を含む滅菌バッグは使用しないでください。滅菌中に溶出した接着成分が製品内部に入り込み、回転不良(固着して作動しない)等の不具合を起こす場合があります。
- ・保管の際は気圧、温度、湿度、風通し、日光、ほこり、塩分、イオン分を含んだ空気などにより悪影響が生ずるおそれのない場所に保管してください。
- ・滅菌直後は高温となっていますので触れないようご注意ください。

